

# 学内探訪 名画をたずねて

“The Problem We All Live With” ノーマン・ロックウェル (1894-1978)

アメリカ合衆国深南部のいくつかの州では人種隔離法によって、レストラン、バス、トイレ等多くの公共施設が黒人、白人用に分けられていた時代がありました。小学校も例外ではなく、連邦最高裁判所がこの隔離法を違憲としたのは1960年の末のことでした。

ちょうどそんなとき、ルイジアナ州ニューオーリンズの白人専用ウィリアム・フランツ小学校に、当時6歳の黒人少女ルビー・ブリッジズ (Ruby Bridges) 1名を受け入れる命令が下されます。この人種統合に反対する白人児童の親たちは学校ボイコット運動を始め、学校に通うのはルビー1人になります。この絵は、その時のルビーの通学風景です。ルビーは私服連邦保安官により暴徒から守られ、登校しなければならない毎日でした。



F館三階廊下にあります

このような出来事は、「アメリカ南部で人種統合運動があった」と匿名の歴史的記述で済まされてしまうことが多いのですが、偶然の目撃者2名がこの少女の行動を人々に伝え、彼女の人生を変えることになります。

一人は、作家のジョン・スタインベックで、『チャーリーとの旅 (愛犬との自動車旅行記)』の途上でこの反対運動を目撃し、その様子を旅行記に書きました。その記事を読んだノーマン・ロックウェルがこの絵を描くことになるのです。

もう一人は、軍医であったロバート・コールズです。彼はこの小学校の前を偶然通りかかり、この異常な登校の様子を目撃し、ルビーとその家族にかかわるようになります。そして、1995年には「ルビー・ブリッジズの物語」という絵本を出し、これは、ディズニー映画にもなります。コールズは、何故、小さな少女がこのような状況の中で生きてこられたのかを問いながら、彼女が、毎朝暴徒に囲まれたて登校する時に以下のお祈りを口にしていたことを報告しています。

「どうぞ、神様、あの人たちを赦してください。あの人たちはいけないことを言っていますが、自分たちが何をしているのか知らないからです。ですから、赦してあげてください。ずっと前にあの人たちがあなたについてひどいことを言ったとき、あなたがあの人たちをお赦しになったように」

この絵は、オバマ大統領就任後、ホワイトハウスにも飾られています。

“Please, God, try to forgive those people. Because even if they say those bad things, they don't know what they are doing. So you could forgive them, just like you did those folks a long time ago, when they said terrible things about you.”

なお、ルビーの絵本とディズニー映画のビデオは大学にあります。興味を持たれた方はカトリック・センターまでご連絡ください。

セント  
カトリック  
センター  
便利  
グッズ

第9号  
平成25年  
10月8日

## 今月のみことば



父よ、彼らをお赦しください。

自分が何をしているのか

知らないのです。

(ルカ23・34)

## マリア観音巡礼に



松陰寺



安観音 薬師寺

行ってきました